

風が吹くと ふと、語りたくなる物語があります。口ずさむ詩があります。

私は思うのです。物語の言葉のひとつひとつには、風や熱や光と同じように見えない働きがあって、次から次へと言葉は言葉を手繰り寄せ、大きな物語へと膨らんでゆく。やがて言葉たちはどこかに流れて消えますが、私の中には物語のひびきが残りに、実感とともに存在し始めます…。まるで風が種を落として行ったかのように。苦しいことを苦しい、辛いことを辛い、美しいものを美しいと書かれた詩は、深く気持ちが良い。

そのまま受けて私の中にそのまま入ってきて熟成する。ただただ陽を浴び、生命を育む花を見て、強さとはかなさを同時に感じ得たことが、物語となる！ 私と自然とを繋いだ言葉の力に私は感謝する。

そしてまた風が吹く……。

ふと、語りたくなるのは、気が流れ、呼吸し、私そのものと呼応しあうからかもしれない。

年二回のこの会は、暖房も冷房もいらない心地よい頃、季節の風を感じながら皆さまと言葉の風を見たくて始めたのです。

今回は、宮澤賢治の思想と芸術感を綴った「農民芸術概論綱要」の礎ともなった賢治想像力の傑作「鹿踊りのはじまり」を語ります。そして8月に地湧社（ぢゆう）から上梓された 加島祥造氏の「老子」新訳一名のない領域からの声—を全編朗読し、皆さまを通して今につながる夕オを投影できればと思います。

柴川康子 盛岡生まれ

記録映画演出助手、PR誌編集を経て、結婚。

子育ての読み聞かせがきっかけとなり、「おはなしかご」にて語りを学ぶ

その後、詩人加島祥造氏に出会い、同氏の講演会にて詩を朗読する。

現在は、一人語りやアーティストとセッションし、

詩の朗読のほか宮澤賢治の作品を語る。



東京都中央区日本橋在住

ブログ：<http://yukinohitohira.cocolog-nifty.com/>

江東区清澄庭園内 「涼亭」

江東区清澄3丁目3-9 TEL 3641-5892

都営地下鉄大江戸線／東京地下鉄半蔵門線

「清澄白河駅」下車 A3出口徒歩5分

